

『颯と鼓と』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

## 地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

- (1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。
- (2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

## 子どもたちの教育は地域全体で担う !!

### 第20回 南都留地域教育フォーラム

南都留地域教育推進連絡協議会（会長：野木忠一東桂小学校長）は、11月2日(木)に富士吉田市立下吉田中学校・下吉田コミュニティーセンター・南都留教育会館において「平成29年度南都留地域教育フォーラム」を開催しました。

今年度は「『子どもたちの教育は地域全体で担う』～みんなで育む地域連携・地域交流～」をテーマに、全体会及び7つの分科会を実施。当日は地域の子どもの育成に関わる各団体から約300名が参加しました。

全体会の基調提案では、「子どもたちが安心して学べる環境づくりと、心身共に調和のとれた子どもたちの成長を願い、本日ご参集の様々な立場の皆様からのご意見をいただくなかで新たな『連携活動』を創造する」ことが提案されました。アトラクション「光っ子連携コンサート」では、勝山中学校「太鼓部」による演奏披露がありました。「みんなでつくりあげる太鼓」「太鼓の魅力で地域を元気にする」を目標に全力で取り組む中学生。その勇壮な演奏に会場は感動の渦に包まれていました。

当日は、公私ともにお忙しい中、教育フォーラムにご参加いただきありがとうございました。皆様からいただきましたご意見・ご感想が生かせるよう、今後とも「連携活動」をキーワードとする地域教育推進に生かしていきたいと考えております。今後もお力添えをいただけますようお願いいたします。



教育フォーラムの様子は、下記のアドレスからご覧いただけます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/minamituruforumtop.html>

**あそびながら科学を学ぼう!!**

## 2017わかっつるサイエンスフェスティバル



都留高校（小俣岳校長）と北都留地域教育推進連絡協議会「明日の風」（会長：石井由己雄大月市長）は、10月7日（土）に都留高校において「2017わかっつるサイエンスフェスティバル」を開催しました。

本フェスティバルは、平成17年度よりSSH（スーパーサイエンスハイスクール）研究指定校として、地域の児童のみなさんに、科学の実験・観察を通して、その「不思議さ、おもしろさ」を体験し、「科学への興味・関心」を高めてもらおうと企画し開催されました。研究指定を終えた、今年度もSSH活動の流れを汲み、「科学の面白さ」を発信するために、継続され13回目を迎えました。

参加対象は南北都留地区の小学生とその保護者で、75組150名の定員に対して107組232名の応募がありました。そのため、抽選により当日は児童・保護者合わせて156名が参加しました。

開祭式に続き、前半は3つのグループに分かれて「チャレンジブース」を体験。「色々紙ヒコーキ」「コップに中の木に雪を降らせよう・・・ユリアの花園」「はっぱの水のとおりみち」の3種類の科学実験にチャレンジしました。後半は、「飛ぶ種の模型をつくろう」「真空にしてみよう」「カラフルいくらをつくろう！」など13ヶ所の「遊びの広場」で思い思いに、科学の不思議さやおもしろさについて学ぶことができました。

実験の指導や説明は、1、2年生71名の生徒が担当。子ども達にわかりやすく、丁寧に説明していました。参加した児童からは「私は科学の本は読んでいたけど、今日は理科について沢山の事を知ることができてよかった。とても楽しかった。」保護者からも「身近な物で実験をすると、より分かりやすく楽しかったです。また、高校生や先生方がとても親切に接してくれて、うれしかったです。」などの感想が聞かれ、有意義なひとときを過ごしました。



## 仲間と心を1つに 最高の思い出!

### やまびこ支援学校 「やまびこまつり」

やまびこ支援学校（藤川健校長）では、10月7日（土）に第39回「やまびこまつり」を開催しました。

午前中は『うたとげきの会』が行われ、各学部の特徴と日頃の学習成果を生かした演技や発表をしました。児童生徒の一生懸命な姿に、保護者をはじめ多くの方から大きな拍手をいただくことができ、達成感を味わうことができました。

午後は、高等部の生徒が取り組んでいる5つの作業班（木工、陶芸、手工芸、農園、サービス）による『作業販売会』と、PTA主催のバザー『エコやまびこ市』が開催されました。“作業学習”の授業の中で丹精込めて作ってきた商品を、多くの人に購入



して頂きました。また、生徒の生き生きとした元気な声の接客によって、体育館中が盛り上がり、大盛況のうちに販売会を行うことができました。



「一人一人に合った支援のために!!」

## 南都留特別支援教育研究会学習会



南都留特別支援教育研究会(会長：小林裕之勝山中学校長)が、今年度の活動をスタートしました。今年度の事務局は勝山中学校が担当します。

5月15日(月)に行われた第1回研究会では会員の自己紹介に続き、今年度の活動計画、8月9日(水)に開催される「山梨県特別支援教育研究大会」の役割分担等について話し合われました。また、第2回研究会を7月4日(火)に実施。まず、「山梨県特別支援教育研究会」に向けて、提案者や運営に関わる役割分担の確認を行った後、昨年より3ブロックに分かれて実施する「青い麦の子大会」に向けた打合せをブロックごとに行いました。第3回研究会は8月29日(火)

に実施。協議事項後の学習会では、ふじざくら支援学校5名の先生をアドバイザーにお招きして、グループ学習を行いました。グループ学習は、「合理的配慮について」「進路・学習指導について」「コミュニケーション(感情のコントロール・気持ちの切り替え)について」の3つのグループに分かれ、事前に先生方の日頃の悩みや疑問などをアンケートにとり、それについての話し合いが行われました。各グループにアドバイザーの先生も加わり助言をいただき、最後に話し合いの結果がまとめられ、中身の濃い学習会となりました。次回は、2月20日(火)に第4回研究会が予定されています。



**交流と体験的な学習で、楽しいひととき!!**

## 青い麦の子大会



南都留特別支援教育研究会では、「児童・生徒の交流と体験的な活動を通して生活能力を高めるとともに、協力し助け合うことの楽しさを学ぶ」ことを目的に行われている「青い麦の子大会」を3ブロックに分け、吉田ブロック及び湖畔・忍野・山中ブロックを9月29日(金)、都留・西桂・道志ブロックを10月11日(水)に開催しました。この大会は、南都留地域の特別支援学級に在籍している子どもたちの交流会で、2日間に児童・生徒147名と、引率の先生135名が参加。

吉田ブロックと都留・西桂・道志ブロックは、富士すばるランドフォレストパーク・ドギーパークにおいて実施。また、湖畔・忍野・山中ブロッ

クは富士河口湖町市民体育館・ちびっこ広場での実施となりました。

それぞれの会場で、午前中は体育館で開会式や「ふれあい集会」が行われました。一人ひとりが元気に自己紹介をした後は、中学生の司会進行で、ビンゴ・じゃんけん列車・歌などのゲームを楽しみ、他校の子どもたちとの親睦が深まりました。趣向を凝らした「ふれあい集会」で、緊張していた気持ちが徐々に和らぎ体育館内には子どもたちの明るい声が響き渡っていました。湖畔・忍野・山中ブロックでは、劇団風の子による「ぱらりっとせ」という伝統遊びを題材とした劇が行われました。観劇後、代表児童・生徒が前に出て劇で使った伝承遊びを体験しました。

午後は施設の見学、芝生やアスレチックなどで遊ぶなど、普段校内では経験できない体験を、自然の中で思う存分楽しむことができました。参加者は、今まで話をしたことのない人と話をしたり、交流を広めたり、楽しい思い出を作ることができたようです。



## 産業技術短期大学校出張授業

# 小立小学校「ものづくり体験授業」



産業技術短期大学校（阿部邦彦校長）では、地域連携及び学校間連携の推進・充実に積極的に取り組んでいます。同校教職員が小中学校で出張授業を実施することで『ものづくり』の仕組みや面白さを伝え、小中学生のキャリア教育に役立てていきたいと考えています。その機会として、10月3日（火）には、小立小学校（小佐野雄也校長）で「小学生ものづくり体験授業」を開催しました。

この日は、クラブ活動の授業の一環として同小学校の「実験クラブ」の5・6年生19名が参加し、産業技術短期大学校の2名の先生による、「3Dプリンターってなんだろう？」を実施しました。初めに、3Dプリンターの仕組みについての説明があり、次に、3Dプリンターによるデモンストレーションが行われました。その後、5グループに分かれ、真鍮製プレートに自分の名前の刻印を打ち、磨いてから、3Dプリンターで作った枠にはめ込んでストラップを作成しました。また、完成した作品は、「小立っこ祭り」で展示されます。

ものづくりに参加した児童達は、普段とは少々違う内容に戸惑う場面もありましたが、互いに作業の確認をしながら、講師や教員の指導のもと、とても熱心に取り組んでいました。児童からは、「ストラップを作ることができて、とても嬉しかった。『ものづくり』はとても楽しかった。また、来年もやってみよう。」などの感想が寄せられました。



## ものづくりのおもしろさを体感!!

# 都留興譲館高校 親子ものづくり教室

都留興譲館高校（中山真男校長）と南都留地域教育推進連絡協議会（会長：野木忠一東桂小学校長）は、10月21日（土）に第14回「親子ものづくり教室」を開催しました。例年、本教室は夏休みに実施していましたが、新校舎への引っ越しのため、10月に実施することになりました。

当日は、「燃料電池カーの製作」「電子制御ロボカーの製作」の2つの講座に児童・保護者合わせて7組13名が参加しました。また、10名の高校生がミニ先生となって小学生を指導。ミニ先生の親切で丁寧な教え方に、参加者は「ものづくり」を楽しんでいました。子どもたちは、難しい作業は保護者の助けを得ながら、みんな素晴らしい作品を仕上げました。



参加した小学生や保護者からは、「親子で製作を行うと、子どものいつもと違う姿を見ることができて、とても良かったと思います。また、機会があれば参加したいです。」「ミニ先生が、粘り強く優しく教えて下さって何とか作る事が出来ました。」「丁寧に教えて頂き、スムーズに作業が出来ました。実際に動く楽しいです。」などの感想が寄せられました。『ものづくり』のむずかしさやおもしろさを体験し、『ものづくり』への興味関心がさらに高まったようです。





技を磨き、心を鍛える！！

## 伊藤知治教士八段剣道教室



北都留地域教育推進連絡協議会「明日の風」(会長：石井由己雄大月市長)、大月市剣道連盟(佐藤芳三会長)、上野原市剣道連盟(村上晃久会長)、富士・東部教育事務所(堀内悟所長)は、10月1日(日)に猿橋小学校において、「平成29年度第13回伊藤知治教士八段剣道教室」を開催しました。

大月市出身の伊藤知治先生は剣道八段・居合道八段・逮捕術八段で警視庁名誉主席師範であります。また企業や大学の剣道部師範として後進の指導にあられています。同教室は「子どもたちとの稽古・ふれあいをとおし、剣道に精進すること、技や生き方に目標をもつことができる機会とする。」ことを目的に、今年で13回を数えます。当日は、大月市・上野原市などから豆剣士や中学校・高校の剣道部員、関係者を合わせて約120名が参加。

伊藤教士はあいさつの中で、「剣道を頑張って続けて下さい。努力をすることで、あらゆる困難な事に立ち向かうことができるようになります。剣道の特性を日常生活に生かし、夢の実現のために目標をもってがんばって欲しい。」と話されました。参加者は約2時間にわたり、剣道に臨む心構えや実技練習につい

てきめ細かい、熱心な指導を受けました。

全体指導のあとに行われた、代表児童生徒との手合わせでは、伊藤教士の気迫と剣士達の気合いの入った姿勢に、会場全体は張り詰めた空気に包まれました。剣道教室に参加した剣士からは、「普段やっていない練習ができ、面や胴の打ち方も詳しく知ることができました。これからは、教えてくれたことを活かせるようにしたいです。そして、伊藤先生の「続けることが大切という」言葉を心に留めて頑張りたいと思います。」「毎年、この教室に参加すると改めて基本の大切さを痛感します。今後の自分の稽古や子どもへの指導に活かしていきたいと思います。」等の感想が寄せられました。剣士達は、日々の自分自身の稽古を振り返りながら充実した一日を過ごしていました。



## 山梨ことぶき勸学院レポート

～勸学院祭・若者との交流～



10月20日(金)、コラニー文化ホールにおいて「勸学院 人の輪 知恵の輪 学びの輪」のテーマのもと「第31回山梨ことぶき勸学院祭」が開催されました。勸学院祭は、「山梨ことぶき勸学院生の日常の研鑽や成果の発表、及び若い世代との交流や芸術文化に触れることを通し、心豊かな学院生活の向上に資すること」をねらいとしています。

当日は、各地域の教室による合唱・ダンス・舞踊・楽器演奏等の舞台発表や勸学院卒業生による研究発表が行なわれました。各教室とも趣向を凝らし、場内を笑いに包み込んだり、感嘆させたりと、それぞれの特性を活かすとともに日常の取り組みやその成果が十分に発揮されていました。

また、異世代交流として参加した身延山高等学校の「手話部」の生徒さんたちから手話を交えた歌を教えてもらい、「上を向いて歩こう」で多くの学院生さんがステージに上り、会場が一体化する盛り上がりで締めくくられました。



# ひばりが丘高校 生活体験文発表大会

## 学校生活を通して、感じ、学んだ貴重な体験を発表 !!

ひばりが丘高校(松野正士校長)では、9月4日(月)に生活体験文発表大会を開催しました。この発表会で選抜された代表者は、山梨県定時制通信制教育祭で発表します。過去には、教育祭での上位入賞者を複数輩出するなど、教育的な成果も上がっています。

生活体験文発表大会の目的は、日々の生活や体験を文章で表現、発表することにより、自己を見つめ直すきっかけをつかみ、かつ、多くの人々に感動と励ましを与えることです。当日は、各学年・クラスの代表者13名が、「憧れを現実」「学校生活で得たことと、将来を見据えて」「今、私に出来ること」「私の中学時代」など、具体的に自分の言葉で表現されていました。



それぞれの発表からは、学年が上がるごとに成長していった様子や、アルバイト先での出会いが自分自身を大きく変えたこと、そしてこれから挑戦していきたいことなど、一人ひとりが悩みながらも前向きに高校生活を送っている様子がうかがえました。発表を聞いていた生徒も、一人ひとりの違いを認め、自分自身と向き合うことができた発表会となったようです。言葉を使って意思の疎通を図り、言葉にして人に伝えることの大切さを学ぶことができました。

また、例年、生活体験文発表大会とあわせて行われていた芸術鑑賞会ですが、10月に行われる定時制・通信制教育祭の芸術鑑賞会へ移行されることとなりました。

## 子育て支援リーダー実力アップ講座が終了

地域での子育てや家庭教育の支援活動を

積極的に推進できる人材の養成 !!



山梨県では、県立大学との協働により地域の子育て支援者のネットワークづくりのための「子育て支援リーダー実力アップ講座」を6月2日(金)から合計10回開講しました。受講者は、家庭教育・子育てにおける喫緊の課題についての講義と実技演習など、毎回各々のテーマについて知識を深め、実力アップを図ってきました。

最終回となった10月27日(金)のグループ別自主研究発表会では、「子育てママへのエール」や富士東部、峡南地区の受講者による「いやいや期と呼ばないで いやいや期から〇〇期へ ~子育ては毎日が記念日~」など、グループごとに取り組んできた研究の成果や今後の課題を発表。いずれの発表も大変興味深く、講師からは「今日の発表は、質が高く素晴らしかった。現場の営みの中から出てきたテーマで良かった。」などの高い評価をいただきました。

発表会後に行われた閉講式では、33人の受講者に修了証が手渡されました。最後に、講師の先生方からは、「支援リーダーとして、『新たな知識・知見』『人とのつながり・ネットワークとかけがえのない仲間』『学び続ける姿勢』の3つの宝を得ることができました。今後は行政や県立大学とのつながりも活用することが大切です。」などのアドバイスをいただき、すべての日程が終了しました。

今回受講された皆様にはそれぞれの地域や職場等において、「子育て支援リーダー」としてますます活躍されることを期待します。



地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。 ※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841